

「税と命のつながり」

富士宮市立富士宮第四中学校 3年 宇佐美 玲緒奈

弟が熱性痙攣をおこしたのは、私が中学一年生の夏のことだ。弟とは八つも歳が離れているので私はとても可愛がっている。そんな弟が高熱を出した際、熱性痙攣という発作のような症状に見舞われた。私は見たのは、父が大きな声で弟の名前を呼び、母が電話で救急車を要請している場面だった。父に抱きかかえられた弟は、目を見開いて体が小さくピクピク痙攣してどんなに呼ばれても聞こえていないように見えた。

「弟が死んでしまうかもしれない。」

そう思うととてもこわくなり私は遠くからその光景をただ見ていることしか出来なかった。

「わかりました。すぐ外に行きます。」

受話器を持っている母が足早に外に向かうと、弟を抱いている父もすぐ後を追った。遠くからサイレンの音が近づいてくるのが分かった。私は邪魔にならないよう玄関から外の様子を伺った。私は弟と母を乗せて救急車が出発するのをただ見ていることしかできなかった。

その後、三十分近く痙攣が続いた弟は脳や臓器への障害の心配があるとのことで一晩母と入院する事になった。幸運なことに次の日の昼くらいには、いつもの生意気な弟に戻って帰宅しほっとした。

数日後、入院した病院からの請求書を見ている母に、

「一晩入院するといくらくらいかかるの？」

と聞くと、

「子ども医療費助成制度があるから自己負担金は0だよ。」

と言われ驚き、その制度についてネットで調べてみるといろいろな事がわかった。まず、子ども医療費助成制度の財源が税金であるということ。私が十八歳になるまでに病院へ通院した際支払う金額が一律五百円で良いのも、税によって助成されているこの制度のおかげだった。そして弟があの時乗った救急車が無料なのも当たり前ではない。税金があるからだ。アメリカではこれらを税金でまかなわれていない為、救急車を呼ぶだけでも高額な支払いをしなければいけないそうだ。生きて行く上で必要な医療費が、税によってこんなにも守られているとは。

私も今は税に守られているだけの立場だが、これから社会人として仕事をし、自ら税を納める立場になる。その時は自分がこれまで支えてもらってきたお返しと、あの時弟を救ってもらったお返しに、病気で苦しんでいる人や怪我をした人、そしてこれからの日本を作っていくであろう子供達を守る為のお金を納めている。と自分を誇れる納税者になりたいと思う。